

司式:長原 光  
奏楽:堀口恵美

前奏:「天にいますわれらの父よ」(G. ベーム)

招詞:眠りについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。(エフェ5:14)

讚美歌:16「われらの主こそは」

#### 交読詩編 98

- 01 【賛歌。】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって/主は救いの御業を果たされた。
- 02 主は救いを示し/恵みの御業を諸国の民の目に現し
- 03 イスラエルの家に対する/慈しみとまことを御心に留められた。地の果てまですべての人は/わたしたちの神の救いの御業を見た。
- 04 全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。
- 05 琴に合わせてほめ歌え/琴に合わせ、樂の音に合わせて。
- 06 ラッパを吹き、角笛を響かせて/王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。
- 07 とどろけ、海とそこに満ちるもの/世界とそこに住むものよ。
- 08 潮よ、手を打ち鳴らし/山々よ、共に喜び歌え
- 09 主を迎えて。主は来られる、地を裁くために。主は世界を正しく裁き/諸国の民を公平に裁かれる。

#### 朗読聖書①エレミヤ書 29:10-14

- 10 主はこう言われる。バビロンに七十年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。
- 11 わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。
- 12 そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。
- 13 わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めると、
- 14 わたしに出会うであろう、と主は言われる。わたしは捕囚の民を掃らせる。わたしはあなたたちをあらゆる国々の間に、またあらゆる地域に追いやったが、そこから呼び集め、かつてそこから捕囚として追出した元の場所へ連れ戻す、と主は言われる。

#### 朗読聖書②ルカによる福音書 11:5-13

- 05 また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところにいき、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。』
- 06 旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』
- 07 すると、その人は家の中から答えるにちがいない。『面倒をかけないでください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』
- 08 しかし、言って多く。その人は、友達だからということでは起きて何かを与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。
- 09 そこで、わたしは言って多く。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
- 10 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。
- 11 あなたがたの中に、魚を欲しがると子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。
- 12 また、卵を欲しがると、さそりを与える父親がいるだろうか。
- 13 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

天地の創造主にして永遠を司り、私たちに時をお与えくださる主イエス・キリストの父なる神さま。復活節第五主日の朝、私たちがこの場に、またライブ配信の席へと招き、あなたに礼拝を献げる時を、お与えくださいましたことを心より感謝申し上げます。

私たちはあなたが与えてくださった時を生きる地上の旅人です。しかし、その場において、いかに多くの罪を犯してきたことでしょうか。あなたを“唯一の神”と認識して口で告白したとしても、自分の経験や知識、様々な所有物を己が神とすることの何と多いことでしょうか。私たちは往々にして間違えます。私が見出したかのように。自分の信じる信仰により義とされるかの如く錯覚をしてしまいます。自分自身が先んじてしまう毎日です。しかし、主なる御神さま、あなたこそが私を見出し、捕らえ、この世から選び分ち、生きる使命をお与えになったのです。この大いなる恵みを覚え真に感謝申し上げます。

過ぐる日には、私たちはあなたの独り子イエス・キリストの十字架の死を思い起こしました。イエス・キリストは神の言葉が現実になり肉となり、私たちと同じ地上の歩みを成し、私たちの困窮と悲慘と行き詰まりをつぶさにご覧になり、最後に罪の報酬としての死から私たちに贖い出すために十字架で死なれたのでした。この絶望の極みにある十字架上の終わりがあったからこそ、あなたが新しい道を備えて下さったのです。私たちは何の功績もなく、ただ主の恩寵の内にその内を歩むことが赦されておりますし、また歩むべきなのです。主よ、この大いなる御業を感謝し、あなたの聖名を褒め称えます。

父なる神さま、あなたがこの礼拝を最初から最後まで導いてください。大谷昌恵先生を説教者としてお立てになり感謝いたします。先生を力づけ、あなたの御言葉を十分に語ることができるよう聖霊の導きをお願いします。また聞く私たちの心を開きイエス・キリストを私たちの心の内に形作ってくださいますように。

この世にはあまたの不条理な死があり、苦難があり、悲しみと怒りと憎しみと暴力があります。どうか父なる神さま、この地上におけるあなたのご支配を明らかにしてください。そしてそのような困難に直面している方々をどうかお助けください。また、私たちが隣人<sup>となりびと</sup>を手助けすることができますように知恵と志をお与えください。また、この世の指導者たちが正しく人や国を導くことができますようにと祈ります。どうか、あなたの平和が実現されますように。

今朝、この場に集い得ない兄弟姉妹のために祈ります。病やご高齢のため、仕事や様々な事情のために礼拝を守ることのできない兄弟姉妹を、あなたが慰め、導き、光の中を歩ませてください。また、信濃町教会のために祈ります。あなたに仕える群れとして相応しい業を為すことができますようにお守りください。

本日、礼拝の後にもたれます教会総会をもお導きください。私たちは教会で様々な活動を行っておりますけれども、この全ての業において、私たちの献身の時としてあなたが導いてくださいますように。私たちの宣教の業は拙く、あなたの福音に相応しくないことも多いことではありますが、どうかあなたが教会の頭なる主として導いてくださいますようお願いいたします。

主の日より始めるこの一周りの歩みをお守りください。佃先生、大谷先生、私たち教会員一人ひとりをあなたが霊肉共にお支えくださり、1周りをあなたの御言葉に従って歩むことが赦されますように。

これらの感謝と祈りとを、尊き主イエス・キリストの聖名を通して御前にお献げいたします。アーメン。

讚美歌:459「飼い主わが主よ」

説教 「求めなさい」

大谷昌恵

私は、無任所教師として過ごしていた間、『ルカによる福音書』を読み続けていました。注解書を読んだりして学んでいたわけではありません。ただひたすら聖書の御言葉と向き合いルカを読み続けていました。なぜ私が『ルカによる福音書』に特別な関心を寄せたかといえば、それはこの福音書の著者である“ルカが医者であった”と言われているからです。幾つかの病を抱えながら日々の生活を送っている私にとって、医者であるルカが、主イエスをどのように見ていたか、そのことに関心がありました。実際に、そのような視点をもちながら『ルカによる福音書』を読んでみても、なかなか医師ルカが見たキリスト像というのは見えてきませんでしたが、しかし、ルカから使徒言行録に続く物語は私にとって興味をそそられるものでした。その中でも、私たちにとって、とても身近なことである『祈り』について、今日は、皆さんとご一緒に御言葉を分かち合いたいと思います。

二週間前に、この直前の箇所から笠原先生が祈ることについて語ってくださったその直後からの11章5節以下を聖書箇所にするのは、非常に恐縮なことだとは思いましたが、私は、今日ここから祈ることについて分かち合いたいと思っています。

今日の箇所は、11章5節以下ですが、この前の部分、11章の1節から4節では、ある所で祈っておられた主に、弟子の一人が“祈りを教えてください”と頼み、いわゆる『主の祈り』を教えていただいたことが記されています。5節以降では、主が教えてくださった祈りに関して、イエスご自身が譬えを用いて『祈り』について教えています。

真夜中に友達がやって来て、“旅行中の友達が立ち寄ったが、何も出すものがないので、パンを三つ貸して欲しい”と言うのです。真夜中といえば、当然、人々は既に眠りについている頃です。なぜ、こんな時間に旅をしている友達が訪ねてくるのか不思議な気がします。しかし、パレスチナ地方では、暑い日中を避けて夕方から旅立つこともあり、夜中に目的地に着くこともあったようです。また、当時は宿屋が充分に整備されているわけではないので、このように、親しい友人を頼って旅することも多く、またこのような場合には、その人をもてなすことが義務に近い慣習がありました。ですから、真夜中に旅人である友達が立ち寄ったこと自体は、当時としては不思議でも何でもなかったようです。「パン三つ」というのは、パレスチナの農民の一人分の食事の普通の量だったということですから、それを貸してほしいと言うのも当然ということでしょう。旅人がやってきた人の家には、すでに家族が食べる以外の余分なパンは、この日、もうなかったということになります。このようなことで真夜中に起こされた人の方は、きっと困ったことでしょう。普通の農家であつたでしょうから、一つの部屋に家族全員が寝ていて、添い寝をしなければならないような幼い子供もいたでしょう。その人にとっては、こんな時間にやって来た友達にパンを差し出すことよりも、大切にしなければならないもの、つまり、家族がいたという

ことです。

8節に「執拗に頼めば」とありますが、これは、恥を知らないかのように、夜中であっても“粘り強く頼むこと”と訳することができる言葉<ἀναίδεια>です。“ちょっとやそつのことでは諦めない”、むしろ“パンをもらうまではここから動かない”という強い意志が感じられます。それぐらい、必要に頼まれたなら、頼まれた方の人は、自分の意志と言うよりも、尋ねて来た友達によって、仕方なく起き上がられ、一度起き上がってしまったからには、パンだけでなく、それ以外にも、必要な物を分け与えてくれるのです。そこでイエスはこう言います。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門を叩きなさい。そうすれば開かれる。」、ここで「求めなさい」「探しなさい」「門を叩きなさい」と訳されている言葉は、直訳をすれば、「求め続けなさい」「探し続けなさい」「門を叩き続けなさい」となります。そうです。ただ、1回求め、探し、門を叩けばいい、ということではないのです。ただ単に求め、探し、門を叩くだけでなく、“恥知らずなまでに執拗に”そのことを頼み続けるならば、“与えられ、見つかり、門は開かれる”のです。そして、それは誰でも、一人残らず、願いがかなえられることが約束されているのです。友達、人であってもそうであるならば、父なる神であれば、なおさらのことです。私たちが恥じることなく懸命に頼むならば、神は、その時必要であると思われるものは何でも与えてくださるのです。

しかし逆に言えば、それほどまでに真剣に祈る祈りとは、どうしても必要な物だけを求める祈りだとも言えます。“あれもこれも”、と祈っても、それをすべて聞き届けてくださる神ではありません。私たちは祈る時に、つい“あれもこれも”と祈りがちですが、そうではなく、節度ある祈り、本当に必要な物だけを祈る祈りが求められています。

11章9節から13節に関しては、『マタイによる福音書』7章7節から11節に、ほぼ同じ形で書き記されています。ただし、ルカでは“魚を欲しがる子供に蛇を与える”とありますが、マタイでは、これが“パンを欲しがる子供に石を与える”となり、同じくルカでは“卵を欲しがる子供にさそりを与える”とありますが、マタイでは「魚」の代わりに「蛇」となっています。「蛇」と「さそり」は、ユダヤ文学では“人間に危害を与える危険なもの”であるばかりではなく、“人間を害する悪霊の象徴”とされています。それほど“危険なものを用いてイエスが語った”とルカは伝えています。父なる神は、私たち人間に対して、そのような危険な物を与えにはならない。それどころか、「天の父は求める者には」最高の賜物である「聖霊を与えてくださる」のです。

寝静まった“真夜中に来てパンを三つ借りたい”というような恥知らずな要求は、なかなか普通の人間にはできることではないかも知れません。でも、切羽詰まった時ならば、人はどのような恥知らずな行いでもしてしまうものです。そして私たち人間は、そのような恥知らずなほどの願いを天の父なる神に対してはしているのです。人が天の父なる神に恥知らずなほど一生懸命に祈るならば、父なる神は聖霊をも与えてくださいます。それほどまでに、神は私たちのことを愛してくださっているのです。

本日の旧約聖書は、『エレミヤ書』としました。エレミヤはバビロン捕囚期の預言者で、彼は最初の捕囚の民となった人々に手紙を書き送り、“ユダ王国を復興させる志を失ってはいけない”と教えています。本日、お読み頂いた29章は、その手紙の一部分にあたります。10節に「バビロンに七十年の時満ちたなら」とありますが、「70」という数字は人間の寿命を表すものです。つまり、今、生きている人たちは誰も自分の生きている内には故郷に帰る

ことができないことを意味しています。これを読んだ人たちにとっては、どれほど辛く切ない手紙だったのでしょうか。しかし、エレミヤは言います。主のご計画は

「平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。」

“今の時は、信じて耐え忍ぶ時である。遠くエルサレムを離れていても、祈り、求めるならば、神は必ずやその祈りを聞いてくださる。だから、祈り、求め続けなさい。”

そうエレミヤは捕囚の民となって、苦しみ辛い思いをしている人々に書き送ったのです。

私は教会学校で子供たちに話をする時、“神さまとお話する方法は、祈ること”といつも言っています。私たち大人でも同じことでしょう。神に何かお願いしたいことがあるとき、私たちは祈ります。しかし、その祈りは自分自身だけのことになってないでしょうか。そしてまたくどくどと、ただ長いだけの祈りになってないでしょうか。私自身、日々祈りながら、祈り終わったときに、今日も、ただ、長いだけのお祈りをしてしまった、自分の思いだけを、ただ神にぶつけてしまった、と置いて反省することがしばしばです。

『ルカによる福音書』の本日の箇所の前、11章2節から4節には、主イエスが教えてくださった『主の祈り』が書かれていると最初にも申しあげました。私たちは、毎日のように、事ある毎に、この『主の祈り』を献げしていますが、もう一度、この祈りを読んでみてください。特に3節以降に注目してみましょう。

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を、皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

ここに書かれているのは“わたしたち”なのです。“わたし”ではありません。自分一人のことではなく、私たち人間すべてのことに関してなのです。決して自分だけに糧が与えられればよい、自分だけの罪が赦されればよい、自分だけが誘惑に遭わなければよいのではないのです。私たち皆に糧が与えられ、罪が赦され、誘惑から守られることを祈っています。果たして、私たちはどのように祈っているのでしょうか。ついつい、自分のことだけを祈っていないでしょうか。しかし、たとえ自分のことを祈っていたとしても、そこに人間すべてに対する思いがあれば、それは主の教えてくださった『祈り』であると言えます。自分のことではなく、どなたか友人のために祈ったとしても、そこにすべての人への思いがあれば、その祈りは神が聞き届けてくださる祈りとして成立します。病に苦しんでいる友のために祈るならば、その時に、その一人の人のことだけではなく、心の片隅にであってその友人以外の全ての病に苦しむ人のための祈りがあれば、それはイエスが求めておられる、そして、教えてくださった『主の祈り』に通じるのです。『祈り』として聞き届けてもらえるものになります。

人間であっても魚を欲しがらる子供に蛇を与える父親がいません。卵を欲しがらる子供にさそりを与える父親はいません。まして私たち人間をこよなく愛してくださる天の神は、私たちが願うものを与えてくださらないはずがないのです。私たちが真剣に祈るならば、何よりも賜物である聖霊をも与えてくださる、それが父なる神なのです。“いや、でも、神さまはなかなか私の求めているものを与えてくださらない。私が望んでもいないことを与えられる”と思

われる方がいらっしゃるかも知れません。私も、そう思うことがしばしばです。では、私たちは本当に求めているのでしょうか、願っているのでしょうか、祈っているのでしょうか。

先ほど“求めなさい、探しなさい、門を叩きなさい”というイエスの言葉を直訳すると、“求め続けなさい、探し続けなさい、門を叩き続けなさい、となるのだ”と申しあげました。そうです。私たちは求め続けているのでしょうか。探し続けているのでしょうか。門を叩き続けているのでしょうか。そして祈り続けているのでしょうか。ただ、一・二度求めたからといってそれで求めたことにはならないのです。ちょっと探したからといって、探し続けたことにはなりません。門を一度叩いたからと言ってしつこくたたき続けたことにはなりません。祈りも同じです。ただ、一度祈ったのに、それが聞き届けられないからといって、それを祈ったとは言えないのです。祈るということは祈り続けること、たとえ何度も祈ってもその祈りは聞き届けられないからといって諦めないで何度でも祈り続けることが大切なのです。

ただし、私たちが求めているものと神が私たちに与えようとしているものでは違っていることがしばしばあります。神には神のご計画があるので。神が与えてくださる最高の贈り物は、「聖霊」です。私たちが何をするにも神からの力を得て前に進み、更なる事柄を行っていくことができるのは、神が与えてくださる聖霊の力によります。神が与えて下さったものが、自分が思っているものと違うからといって、そこで神に不平不満を言うことは間違っています。神は神のご計画に従って、そして私たちがそのご計画に沿って最良の道を進むことができるようにと与えてくださっているのは聖霊なのです。聖霊の力無くして、私たちは何も為し得ません。聖霊の力を頂いているからこそ、日々前に向かって歩み、何事をも成し遂げていくことができるのです。そのことを忘れてはなりません。“求め続けましょう、聖霊の力を。祈り続けましょう、私たちに聖霊の力が与えられることを。”そうすれば、私たちの道は必ずや開けていきます。今日もここから聖霊の力を得て、そして祈り続けて、一週間のこの世の旅路へと一歩進めてまいりましょう。神は必ずその祈りを聞いて良い道を備えてくださいます。

共に祈りを合わせましょう。

神さま、私たちは日々あなたに祈り続けています。どうかその祈りを、あなたのご計画に沿ってお聞き届けください。そして、私たちに、あなたからの最良の贈り物である聖霊を贈ってください、私たちが日々、御心に従って歩んでいけるようにお導きください。この祈り、主イエス・キリストの聖名を通して、御前にお献げを致します。アーメン。

讃美歌:343「聖霊よ、降りて」

献金・感謝(萩原孝博)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

ご在天の父なる神さま、聖名を賛美致します。今朝は、あなたの前に集い、またはライブ配信によって礼拝を献げることが赦されまして感謝でございます。

礼拝を通して、大谷先生のお口を通して、あなたの御心を、御言葉をもって与えられました。私たちは貧しい者ですが、御霊の導きによって、豊かな御霊の霊を与えられましたことを感謝致します。どうぞ、私たちが熱心に求めて行くことが出来ますように、門を叩き続けることができますようをお願いいたします。

私たちは必要な物をあなたより十分に与えられております。その中より、

あなたの御用のために、どうぞ、ほんの少しですが用いてくださいますように、感謝と献身のしるしとして御前にお献げいたします。

あなたが教えてくださいました『主の祈り』をもって、一巡りの歩みを歩ませてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣：讃美歌 88「心に愛を」

祝福：主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の豊かな交わりが、私たちの上に永久とこしえにありますように。アーメン。

報告：(1) 教会学校：花の日献金の要請、(2) 支援特別委員会：ボックス配布「通信」の案内、(3) 北地区婦人部：6/6(金)全体集会(於：信濃町教会)の案内、(4) 管理委員会：修繕工事日程の案内、(5) 修養会委員会：報告書配布の案内、(6) 6/1(水)オンライン祈禱会の案内。

後奏：「天にいますわれらの父よ」(J.S. バッハ)